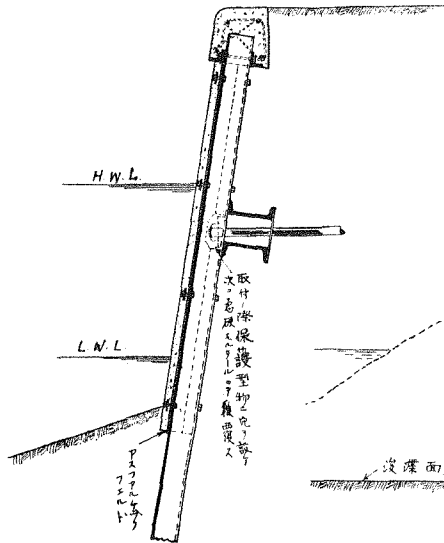
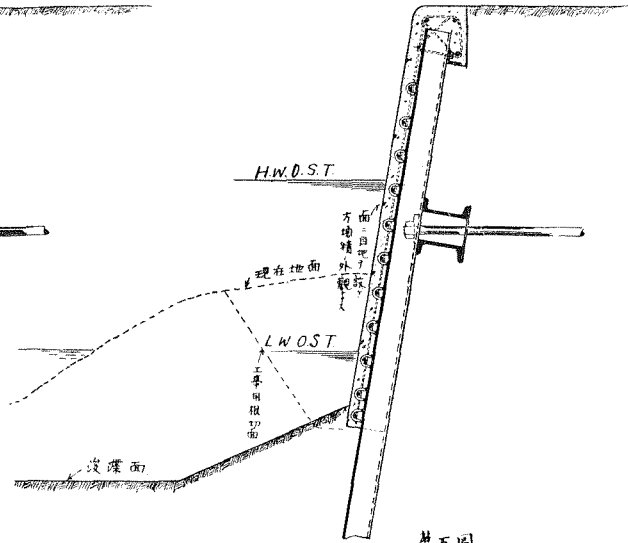


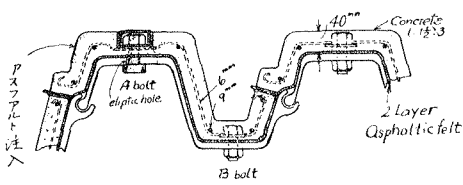
第三圖 保護型物取付護岸



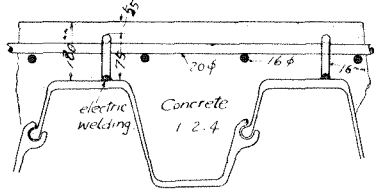
第二圖 (感潮區域運河、河川護岸改修)
鐵筋熔着混凝土貼



第六圖
鐵矢板保護型物平断面



第五圖
鐵筋熔着混凝土張平断面



鐵矢板の保護工法

東京市橋梁課長 工學博士 岡部三郎

岡部博士最近の考案になる鐵矢板の保護工法で、面坪當り50圓以下で出来るものであるから、各方面で試験的に施工せられん事を希望するものである。(編輯係)

- 一、鐵筋を熔着せる新案鐵矢板に場所打混凝土貼をなす法。
- 二、豫め適當なる長さに製作せる新考案鐵矢板保護型物を取付くる法。

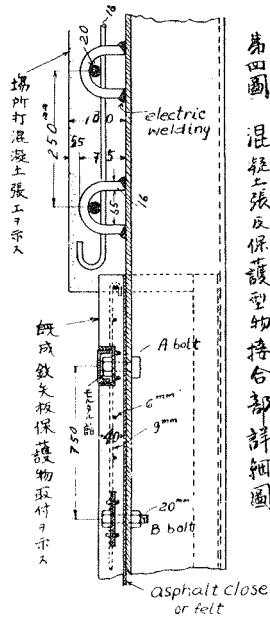
圖面の説明

第一圖

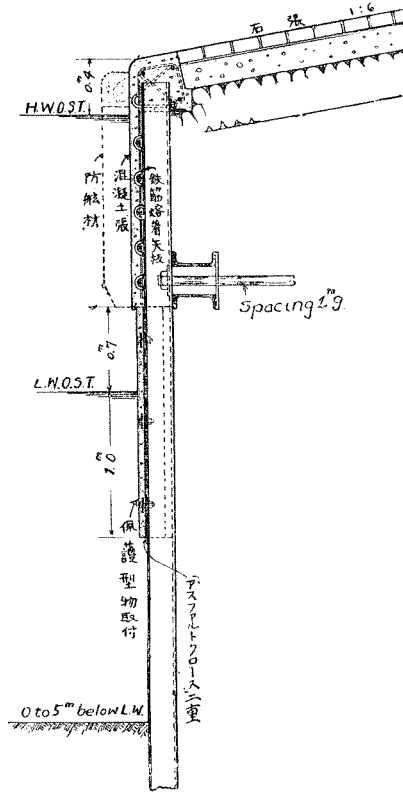
海水工事に於て干潮工事にして場所打混凝土の容易なる高さ(横濱及神戸等に於ては干潮面上0.7米)以上の部分に豫めU字形鐵筋を電氣熔接し、其下部には數箇のボルト孔を設けたる鐵矢板を頭を揃へて打込み、其下部

に豫め適當なる長さに製作せる保護型物をBボルト(並ボルト)にて取付けをなす。取付の際保護型物と鐵矢板との間に「アスファルトツクフェルト」等の如き防水材を挿入し鐵矢板と型物を密着せしむ。

次に矢板の裏込工を施行し矢板面を落着かしたる後上部に熔着せるU字鐵筋に一區間分(壁延長9米半毎にエキシパンションジョイントを設けて區分す)の長さの丸鋼を横に通し尙ほ縦鐵筋を組合せ其前面に型枠を据えフック若くは針金にて之を構鐵筋に取付け型



第四圖 混泥土張反保護型物接合部詳細圖



第一圖 物揚場 上部、鉄筋熔着混泥土貼 下部、保護型物取付

枠の兩側及下部はボロ綱等を詰込み成る可く水密をなし、既に取付たる保護型物天端上部の被覆混泥土を、干潮時を利用して其上面が常に水面上にある様注意しつゝ施行し、相當期間後型枠を取外せば鐵矢板表面は完全なる鐵筋混泥土となり、鐵矢板も永久工事として何等の懸念なきものなる事を得べし。

第二圖

感潮區域に於ける河川運河等の護岸改修にU字形鐵筋を熔着せる鐵矢板を使用し、混泥土貼をなすものす。現在河底は比較的淺くして干潮面上に出づる場合は矢板打込後其の前面を局部的に根切をなし若し必要なる際は簡易なる締切をなし干潮時に於て局部的排水を行ひつゝ鐵筋及型枠の取付をなし混泥土面が常に水面上にある様注意しつゝ混泥土打をなす。混泥土面に適當なる目地を設け間知積又はブロック積の如き外觀を呈せしむる事を得。

得。

本工程は護岸以外にLドライブワークとして施行し得る橋臺、下水渠、地下道其他に容易に利用し得べし。

家屋の密集せる都市に於ては普通工事の如く根切を要せざるを以て甚しく家屋に被害を及す程度を低む。

第三圖

既成の鐵矢板護岸の表面を保護する場合海波荒くして混泥土貼工困難なる場合、又は簡易なる護岸にして第一圖の工法を必要とせざる場合は豫め適當なる數のLボルト孔を有する鐵矢板を打込み既成品なる鐵矢板保護型物を第一圖下部同様取付くるものす。護岸の裏込が既に完了せる既成護岸等に於ては、現場に於て矢板に橢圓形ボルト孔を穿ちAボルトを前面より取付くるものす。